

事項	ツバヒラタケは菌床で栽培できる		
ねらい	大型で歯触りの良い食用きのこツバヒラタケの菌床栽培方法を開発したので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 栽培方法</p> <p>(1) 培地基材 スギおが粉を使用する。</p> <p>(2) 栄養材 フスマ、ホミニーフードを容量比でおが粉10に対してそれぞれ1、2の割合で混合する。</p> <p>(3) 温度管理 接種から子実体発生まで培養時の適温は25℃前後、発生時の適温は15℃前後である。</p> <p>(4) 栽培期間 栽培ビンを使用し、培養に40日、収穫まで約60日である。</p> <p>2 留意点</p> <p>(1) 種菌接種後の培養温度が低いと菌糸の生長が遅く、ツバヒラタケの菌がまん延する前に害菌により汚染されるので、22℃以上で培養する。</p> <p>(2) 子実体の正常な発育には十分な光が必要である。</p>		
期待される効果	本県の新たな特産きのこの育成に寄与できる。		
利用上の注意事項	<p>1 光の不足による形質不良の対策については検討中である。</p> <p>2 6月末に種菌を接種した培地を室内で2か月培養し、スギ林内のビニールトンネルで発生させることもできる。</p> <p>3 種菌を入手する際は林業研究所に問い合わせる。</p>		
問い合わせ先(電話番号)	林業研究所森林環境部 (017-455-3257)	対象地域	県下全域
発表文献等	<p>平成21年度青森県産業技術センター林業研究所報告</p> <p>平成23年度版ツバヒラタケ栽培マニュアル(林業研究所ホームページに平成23年4月掲載予定)</p>		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 野生のツバヒラタケ



写真2 空調施設栽培のツバヒラタケ



写真3 スギ林内のビニールトンネル



写真4 偏った光による形質不良の子実体

表1 培地組成の違いが発生収量に及ぼす影響

試験区	培地組成	収量 (g)			平均発生本数	平均収穫日数
		平均	最少	最多		
1	10:1:1	29	16	45	1.9	62
2	10:2:1	51	37	59	2	63
3	10:1:2	78	63	99	4.7	60

(注) 培地組成 (スギおが粉 : フスマ : ホミニーフード)